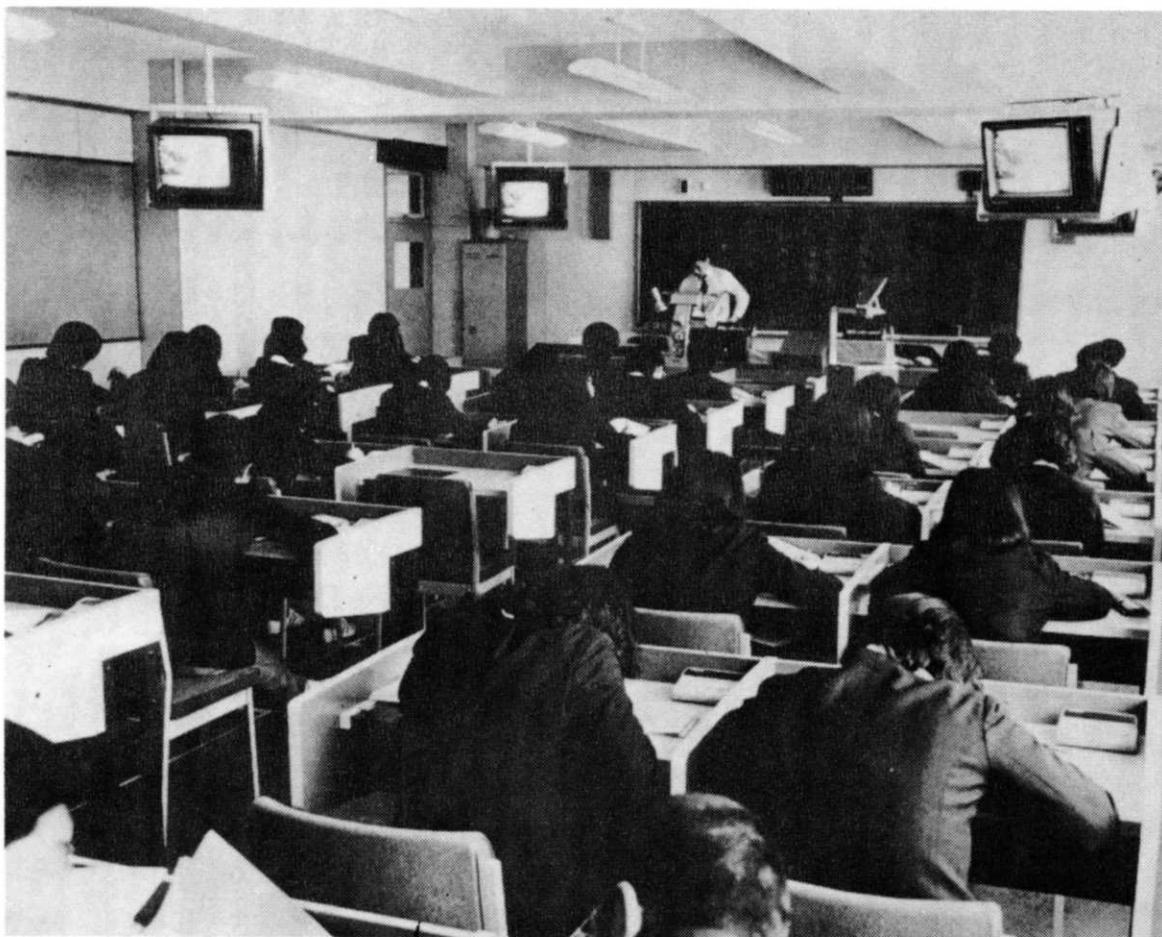


学習の現代化をめざして

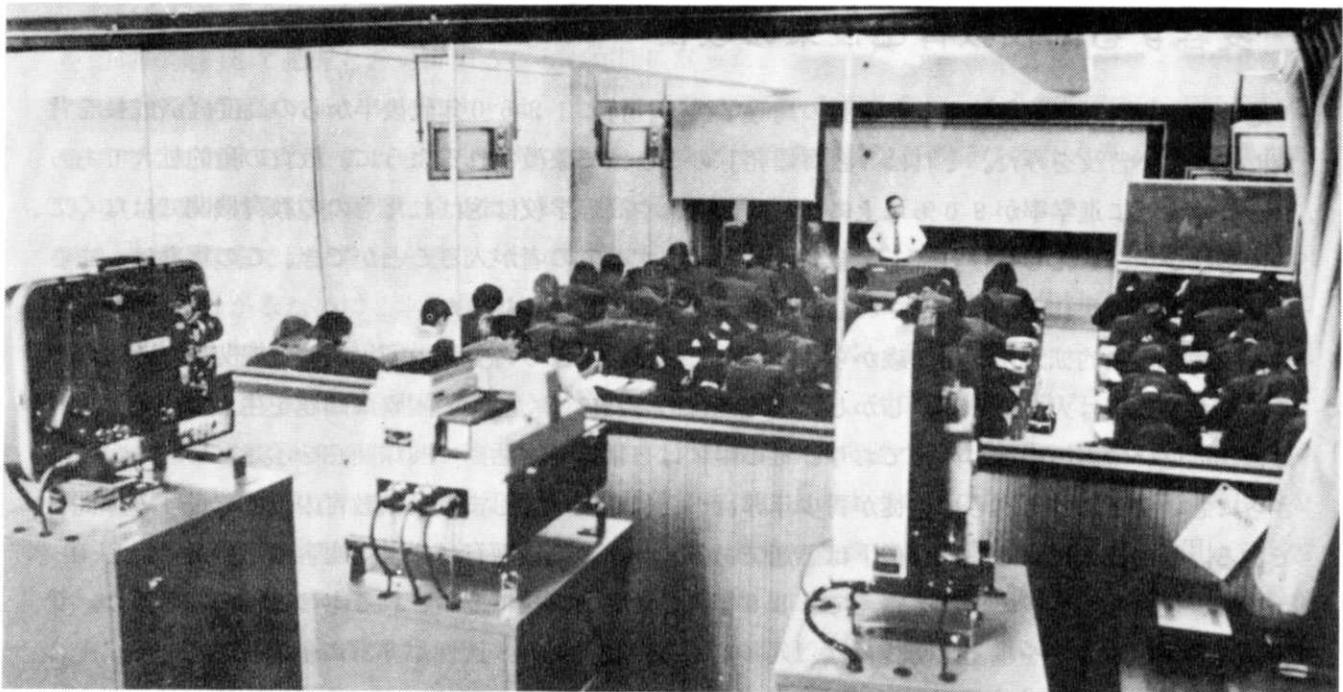


北海道札幌北陵高等学校

目 次

はじめに	3
本校における教育機器の整備と利用状況	4
視聴覚室	6
視聴覚室・同準備室システム図	8
教育工学室	9
教育工学室・システム図	11
第1講義室	12
教育機器を活用しての学習	13
視聴覚施設・設備	14
本年度視聴覚関係教室の使用状況	17
本校における視聴覚教育のあゆみ	19

はじめに



—教育のイメージ作りと教育機器—

授業に教育機器を導入すれば、少なくとも授業が集約化することは確かであろう。これまで、教室では提示できなかった資料や、わざわざ出かけて行かなければ見られない場面の観察や、教室の中では不可能な実験をVTRなどの映像によって重要な部分だけを提示して、学習の動機づけや、理解、定着を強化することができる。またアライザ（集団反応分析装置）の活用によって、これまで教師の勘にたよっていた生徒の理解度の把握がより確実になり、教師自身のフィードバックの有力な手がかりとなるとともに、個別指導を徹底するための資料とすることができる。限られた教師の労力で個別指導の時間を生み出すことはむずかしいが、教育機器を活用することによって、より多く、より確かな可能性を生み出し、未来の教育のイメージ作りに役立つことは確かであろう。

本校では、ひとりひとりの生徒に学習を着実に成立させるために、上に述べた教育方法に新しい方向を導入した実践研究と、そのための教育に必要な施設設備の整備に努めてきた。

以下、北陵高校における視聴覚教育の基本的な考え方とその概要について述べてみよう。

本校における教育機器の整備と利用状況

変容する高校教育と授業の改善

進学率40%程度から始まった新制の高等学校は、特に1960年代後半からの高度経済成長を背景に、著しい普及をみた。それは「教育爆発」のことばに象徴されるように、教育の量的拡大であった。このように進学率が90%以上になれば、もはや高等学校は選ばれたものの教育機関ではなくて、特に学校を選びさえしなければ、希望者はほとんどすべての者が入ることができ、この実態は、まさに高校教育の大衆化というふざわしい。希望者全入の時代になった。

高校教育の量的拡大は、15歳から18歳までのほとんどの青少年の国民的教育機関になったわけで、果たす役割は大であろう。しかし、一方ではあらたにいくつかの困難な問題を生んでいる。それは極端に低い学力の生徒が入っており、その中には日常の学習活動に興味関心を示さない者もいる。さらに悪いことに、それらの生徒が青少年非行へと目を向けてしまう高校教育の質的なひずみの問題である。量的拡大による質的な低下は急速である。いま、高校教育は大きく変容しつつある。

では、変容した高校の実態を踏えて、80年代の新しい高校に要請されるものは何であろうか。第一は進学率が90%を越えた時代には、入ってくる生徒の能力・適性が非常に多様化している。その多様化した実態に対応できるような、思いきった弾力化をはからなければならない。第二は、学習内容での“ゆとり”的問題である。ともすると「知識ぶとりの徳やせ」などと批判されがちなこれまでの高校教育が、知識を得る場から、生きていくための本当に必要な基礎的・基本的な知恵を得る場へと変わなければならない。第三に、そのためには、多く面で高等学校の内容が変革されなければならないが、早急に必要なことは授業方法の改善であろう。進学率40%程度の選ばれた者の時代と、90%以上の時代で、同じ教育方法では効果は期待できない。それは、学習面だけの改善ではなくて、生活指導面でも同じであり、新しい時代の高校教育に求められている課題は、高校教師自身の意識の変革といえる。

さて、本校では上のような観点から次の重点活動を設けて教育がすすめられてきた。

- (1) 生徒との人間的なふれ合いの徹底
- (2) 能力、適性の多角的な把握と個別指導の徹底
- (3) 自主的、能動的な生活習慣の育成
- (4) 各種教育機器の活用による効果的な個別学習法の開発
- (5) 文化的な活動の充実による豊かな感受性の涵養
- (6) 体育的な活動の充実による体力、気力の養成
- (7) 規律ある集団活動と連帯感の高揚

以上7項目の重点教育活動を、具体的に展開できるように校舎内外の諸施設が整備されている。中でも(4)の「教育機器の活用による学習指導の開発」は、メディセンター構想として、最重点整備項目のひとつとして、充実がはかられてきた。

最近の教育機器の開発にはめざましいものがあり、教育工学の発達とともに単なる視聴覚機器の段階を越え、これまで教師が行なってきた教授機能のいくつかを人間よりもきわめて能率的に効果的に代行できる部分が多くなってきた。映画、スライド、テレビなどの普及により、多くの学習者に対して教材を提示することができ、また集団反応分析装置（アナライザー）の開発により、学習者の反応を即時に集約して把握し、分析することも可能になった。

本校でのメディアセンター構想とは、放送室、視聴覚室、教育工学室、そして図書室などの施設を集中的に配置することによって、音声や映像、さらには図書資料など多様な教育メディアを有機的に活用し授業の効率化と個別化をすすめようとする考え方である。

例えば視聴覚室では、現在一般化されているあらゆる音声、映像による教材提示が可能であり、さらに効率化をはかるために2学級合併による授業もできる。一方、教育工学室は集団反応分析装置による学習の個別をねらったもので、学習者ひとりひとりの理解度や、進歩を把握することができる。同時に学習者の反応結果は、教師自身へのフィードバックであり、授業改善の有力な手がかりとなる。

それぞれの施設々備の内容や活用状況についての詳細は次項で述べるとして 授業改善のひとつのかたとして、教育機器を積極的に活用してきた考え方は以上のようなものである。授業に教育機器を導入すれば、授業が集約化することは確かであろう。音声や映像による多様なメディアを用いて学習すれば、学習の動機づけや、理解、定着を強化できることは、多くの研究事例で明らかである。しかし、学習者の創造力や思考力を育成する目標に対しては、どこまで切り込んでいくのかは、まだまだ未知数の部分が多くすぎる。しかも、新しい高校教育の中で、もっとも求められているのは生徒ひとりひとりの創造力や思考力の育成である。それだけに、機器万能に陥らないように、それぞれの機器の特性と、効果的な活用法についてのいつも研究しなければならない。

最近では、教育工学ということばはかなり一般化してきた。これまでの視聴覚教育が、どうして教育工学ということばに置き替えられつつあるのだろうか。それは、教育機器を使えば学習効果があがるというものではなくて、授業そのものが綿密にシステム化された中で、はじめて教育機器の特性が發揮できることがわかりはじめたからであろう。工学のねらいは「どうしたら～」が目的である。したがって、教育工学とは「どうしたら学習効果があがるか」を追求するのがねらいである。したがって、教育工学は学習の効果を高めるために、教育機器を含めたあらゆる教育メディアを駆使して、授業設計がなされ、展開されるものである。

高校教育の目的に向って、総合的にアプローチしていくためにいつも教育機器の限界を確かめつつ、実践をすすめている。

視聴覚室

Audio-Visual Roomの仕様（AVR）

フィルム映像と電子映像のメディアを最も適合する分野を分担させて、複合的に利用し、相乗的効果をねらい、能率よく、効果的な学習を進めようとするものである。

室内の各種機材の他に暗幕、スクリーンの開閉、天井灯などの操作は全てリモートコントロールによりレクチャー側と準備室のコンソール卓からスイッチを押すことでタイムリーに授業展開が行える。

①フィルム映像

- 16ミリトーキー映写機F16-250HL (AV) ペデスタル付。

24V、250Wハロゲンランプを光源とし、画面の安定した映写機。

- 8ミリトーキー映写機ST-8(AV)ペデスタル付
8ミリ映画を教材として用いる場合に最適でスーパー8光学、磁気録音再生装置付の映写機。

- スライド映写機AS-1000T (AV) TRペデスタル付。

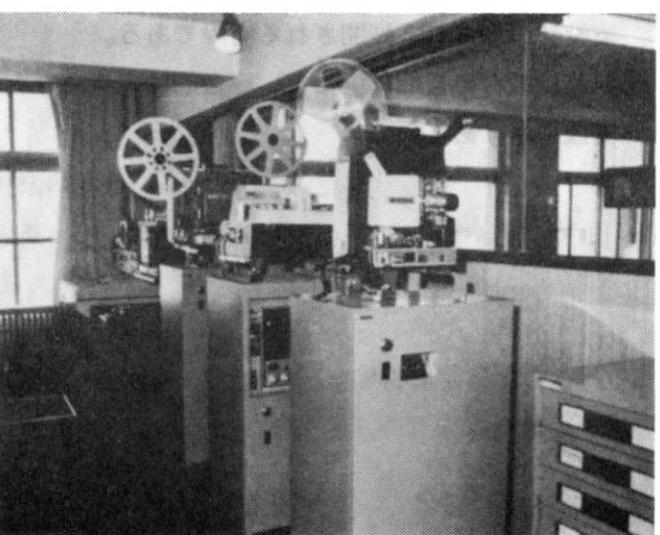
100V-1000W光源としたスライド映写機で35ミリのスライド、スライドストリップ（フルサイズ、ハーフサイズ）が凡て使用できる。 映写のスタート・ストップの他にスライドチェンジ、フォーカシングのリモートコントロールとテープによる同調映写が可能。

- 音響装置 (AVミキシングコンソール) 7101型

AVRシステムの中心機材で、各種の映像機器、音響機器、照明、暗幕、等のコントロールが集中している。

- レクチャーテーブル

AVRの一切の機能がリモートコントロールできる。



●電動昇降式スクリーン装置

横3m50のスクリーンは映画や、スライド等を投影し、シネマスコープも可能。

●電動暗幕装置

室内は普通のカーテンを思わせる雰囲気で、パニランシルバー地を使用した完全暗幕、リモコン操作により、一斉に開閉可能。

●音響装置

メインスピーカー（映画、テープレコーダーの音声用）

天井スピーカー（マイク系の音声用）

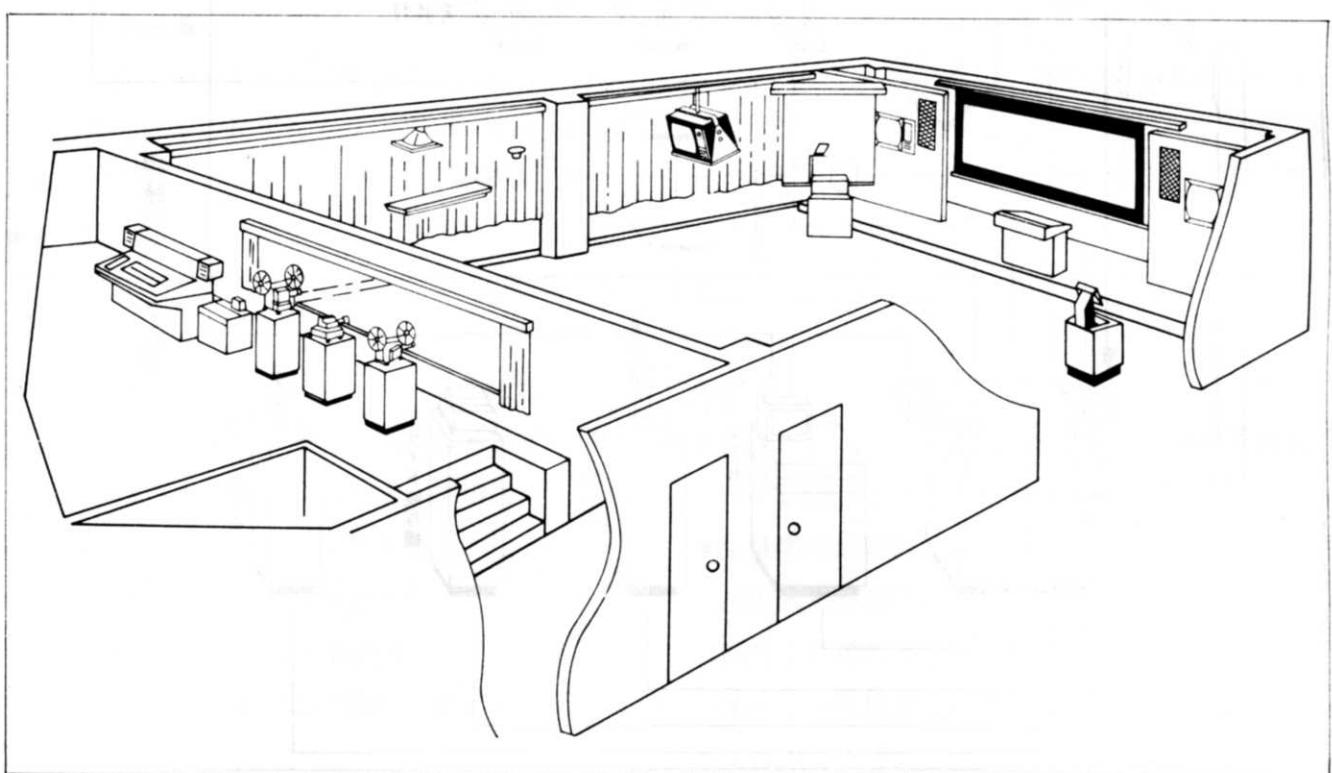
●照明装置

螢光灯や残置灯などレクチャーテーブルにて、コントロール可能。なお、残置灯はスライドや映画を映写中にでもメモが取れる様明るさが調光される。

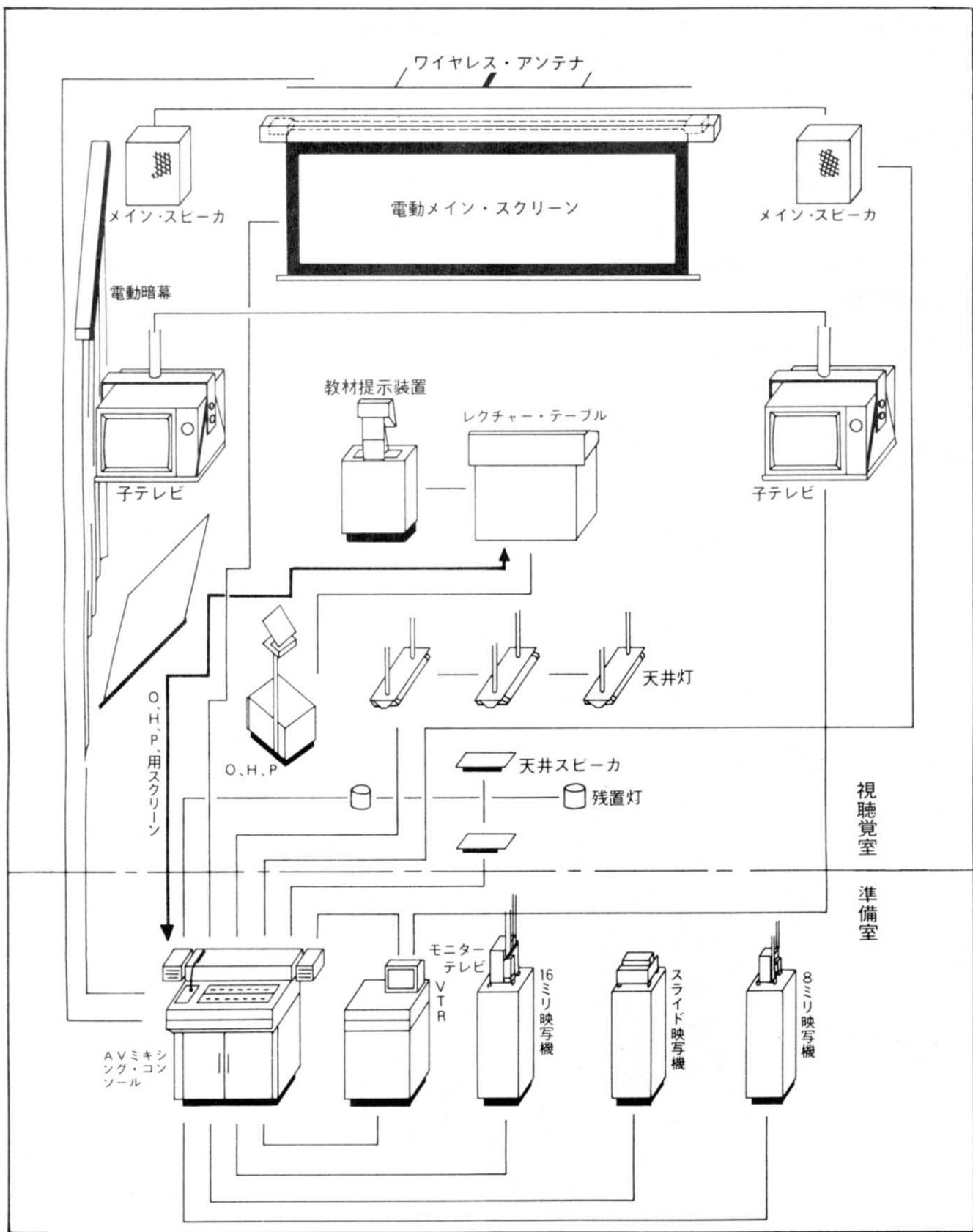
②電子映像

●天井に6台のモニターテレビが吊下げられ、教材提示装置や、カラーVTRの映像及び放送中の教材等を切替えスイッチにより自由にモニター可能

その他オーバンヘッドプロジェクター及びスプリングローラー式スクリーンが装備、TP教材を使用しての授業展開は複合利用効果を高めている。



視聴覚室・同準備室システム図



教育工学室

この教室は教育に関係した操作可能とする全ての要因を制御して教育効果を最大限に高め、又効率化を図る装置である。

主に教材提示と学習反応の連けいによる授業の適正化と学習反応の分析を通じ授業プログラムと教材の改善をしながら、各種の資料等も作成する。

①教材提示

カラー教材提示装置 カラーカメラ内臓で資料やスライドプロジェクターの映像等をカラーテレビに映し出す。

カラーオープンVTR 放送教材や自体教材等録画したり、編集をしたり、又ディスプレーを収録できる。

音声カセットテープ 音声教材等をメインスピーデッキ及プレーヤー カーを通して流される。

②反応分析装置

- グループアナライザーで集計された回答データを分析し、その結果をカラーCRTブラウン管に表示できる。
- 表示内容は個別回答表示および回答分布表示(パターン1)回答率(または正答率)の時間累積表示(パターン2)と回答率(または正答率)の時間分布表示(パターン3)の3種類。
- スタート中の各パターンは時間経過ごとの回答(または正答)推移がわかる。締切後の各パターンは結果のみを再表示できる。また、生徒の反応結果を総合的に分析できる。
- スタート中・締切後・到達後・正答者などを「色」表示できますので教師は授業の状況を知ることができる。



- 各パターンはモニターテレビ(白黒)に表示でき、しかもVTR(白黒)に録画できます。授業後の分析等に利用可能。
- あらかじめ設定した目標回答者数の到達は、ブザーでわかる。
- 反応プリンターとの接続で個人別記録や選択肢ごとの回答者数記録が、座席位置に対応して得られる。
- タイマーにより、締切→記録→正答表示を半自動化されている。
- 集団記録器の接続で、全員の回答率または、正答率を記録でき、補足説明のタイミングの把握も可能。
- 集計ユニットは、個人別に10問までの正答回数の集計記録を反応プリンターからえられる。
- 生徒用の回答器は、欠席は、電子的に記憶され、出席者回答器と区別される。
回答した番号が正答の時、回答器Bの発光ダイオードが点検するので、生徒が正答を確認することができる。

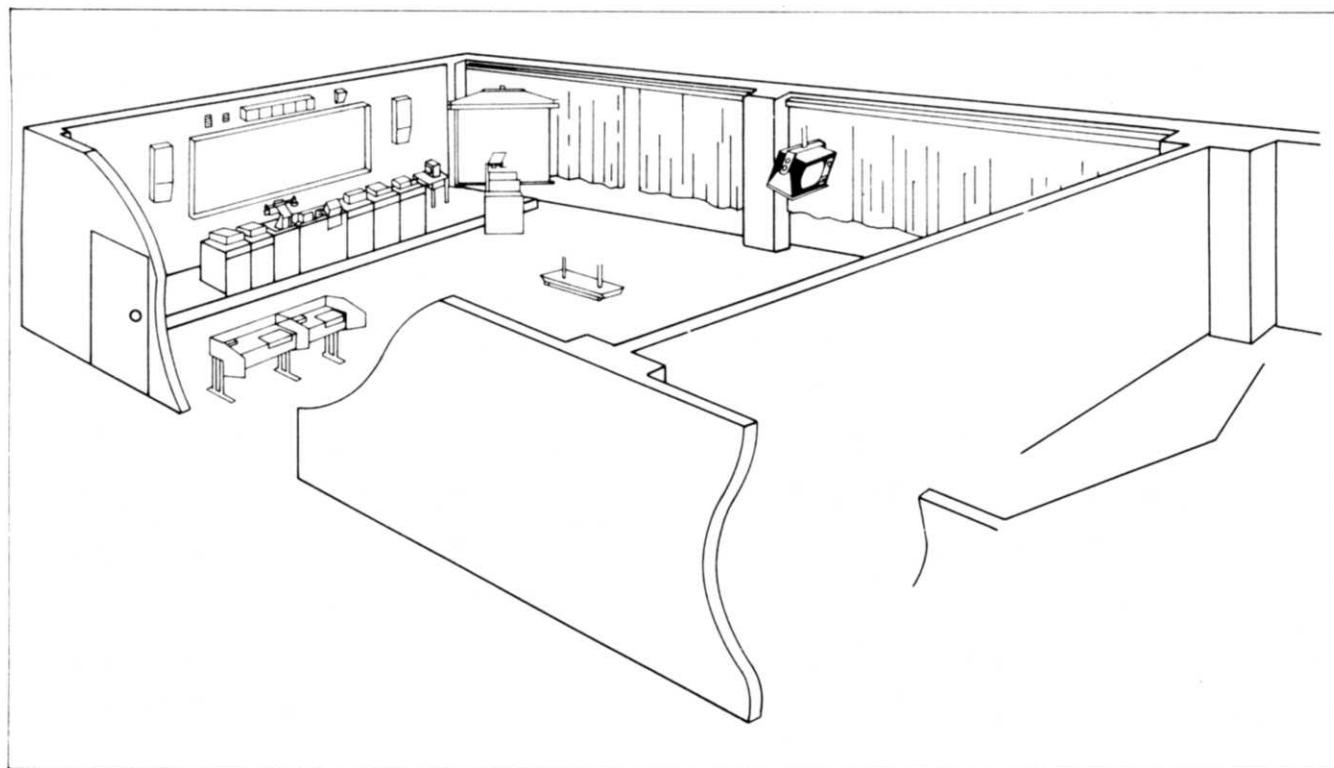
③WE-2600シリーズシステム構成

操作卓 (WE-2601) × 1
カラーCRTモニター (WE-2602) × 1
ディスフレイ制御器 (WE-2610) × 1
制御器 (WE-2410) × 1
回答器B (WE-2520) × 48
反応プリンター (WE-2490) × 1
回答分布表示器 (WE-2580) × 1
正答表示器 (WE-2480) × 1
集団記録器 (VP-6231A) × 1
タイマー × 1
チャイム × 1
ブザー × 1
集計ユニット (WE-Q12) × 1
教材提示装置 (WE-502・特)
カラーモニターテレビ (TH20-A231C) × 4
OHP (HP-300) × 1

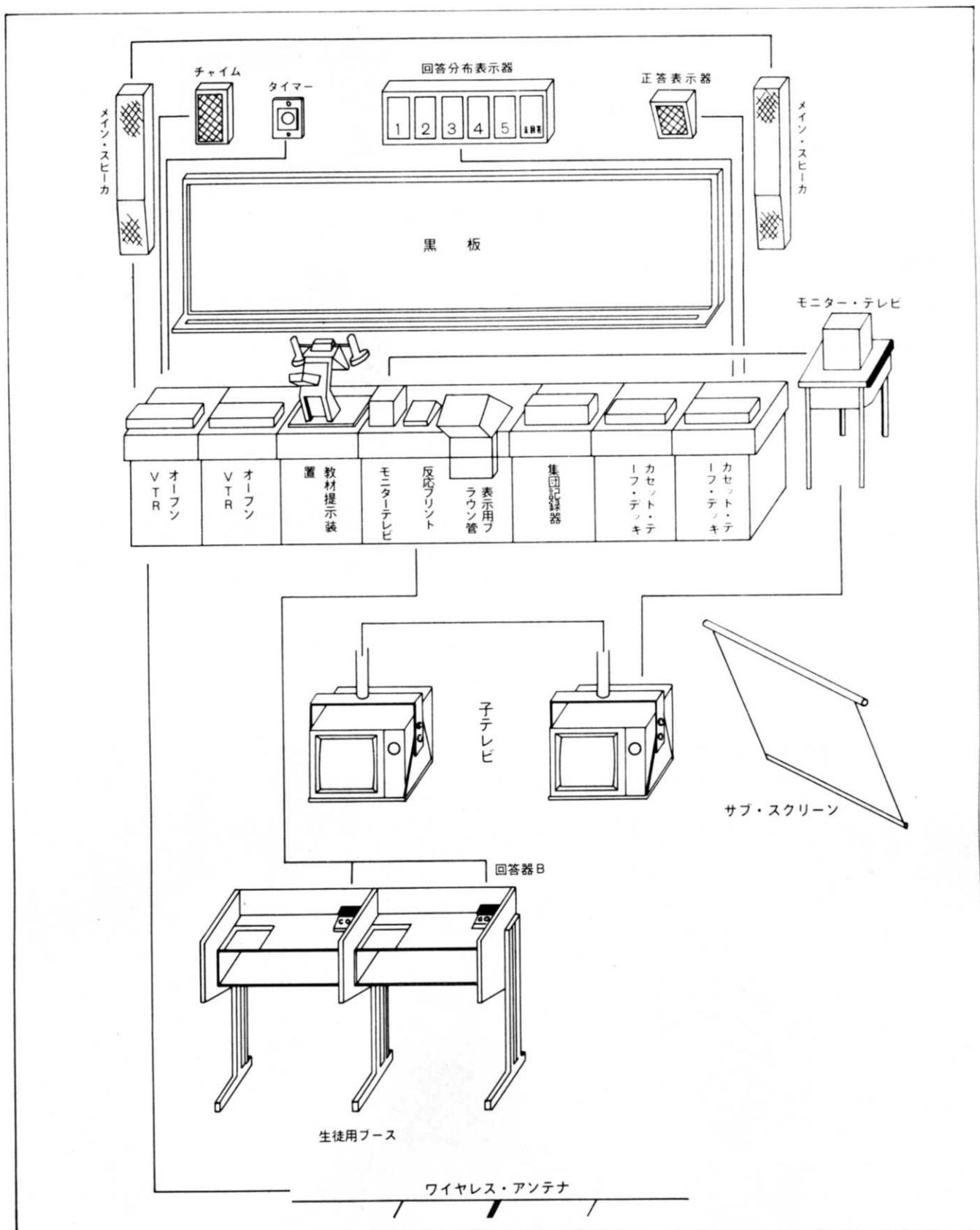
ワイヤレス受信機 (WY-210) × 1
ワイヤレスアンテナ (WX-355) × 1
ワイヤレスマイク (WX-450) × 1
VTR (W-3130) × 1
VTR (NU-3120) × 1
レコードプレーヤー (SP-221S) × 1
カセットデッキ (RS-265U) × 2
マスターモニターTV (TH13-R 3 A)

④生徒用ブース

BA-221D × 24



教育工学室・システム図



第1講義室

電子映像を主体とした機器構成。

- ①放送中の番組を流すことができる。
- ②すでに録画した教材テープの再生可能。
- ③カメラを接続することにより、実験の状況や資料の提示として天井吊下げモニターテレビに映し出すことができる。

また、このときの状況も録画できます。

- ①～③の映像は、送り出しをする前にレクチャー側で調整及び確認をしてから映像切替えスイッチを押すことにより、モニターテレビに映し出すことができる。

●機器構成

カラー モニターテレビ CVM-1360

音声映像切替器 VCS-80

カラーオープン VTR AV-8700

黑白カメラ

録画タイマー RH-320

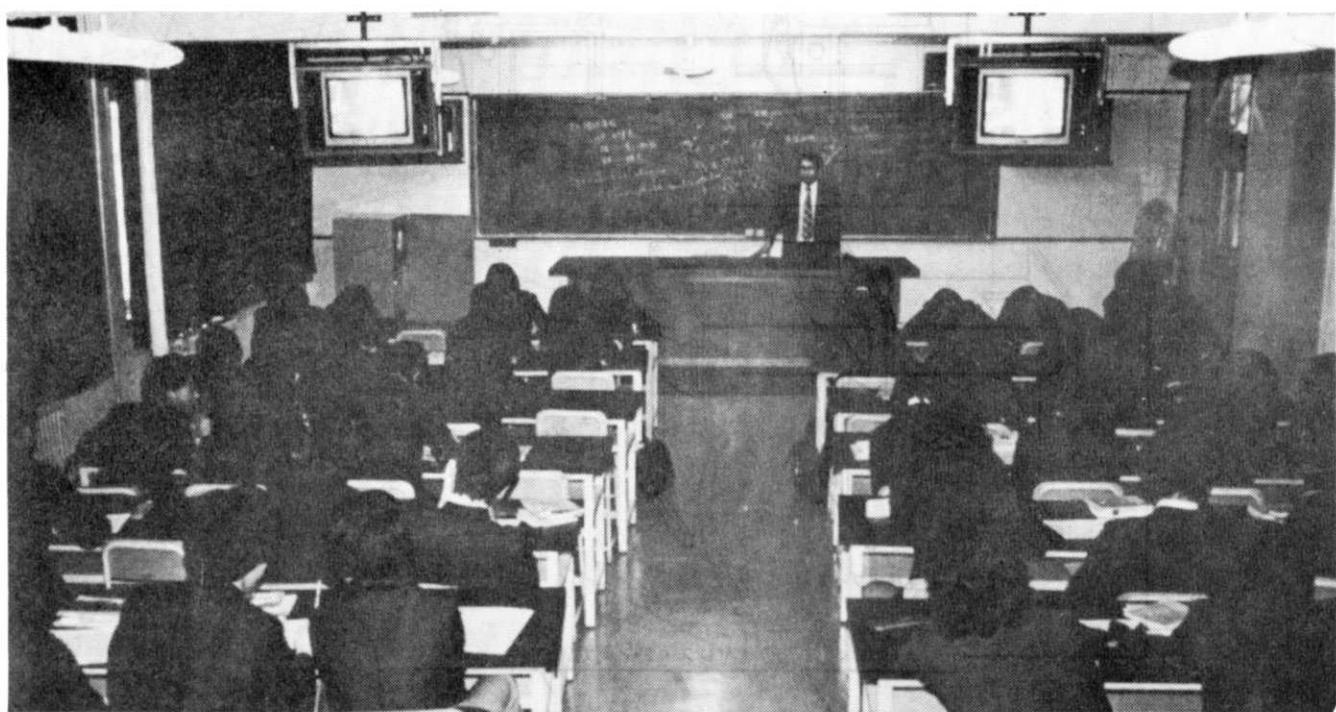
カラー子テレビ PVM2020×4



スライド映写機 AS-1000T(AV) × 1

OHP HP-300 × 1

スクリーン × 2



教育機器を活用しての学習

—視聴覚室・第1講義室・教育工学室での授業—

みなさんは小・中学校の勉強の中で、テレビ・スライド・映画などを用いて学習した経験のあることでしょうが、その時の映像や音が今でも強く印象に残っているものがあると思います。これから始まる高等学校の勉強の中でもこれらの教育機器を活用しての学習の場がたくさんあります。本校の施設や設備は、そのどれをみても立派なものばかりですが、中でも視聴覚施設は道内の高校では数少ないすばらしいものです。また指導にあたる先生方もこの面でも第一線の方々ばかり。みなさんもこれらを大いに活用し、頑張って先生方の熱意にこたえてください。

▶ 教育工学室 「教育工学」と聞くと何かむずかしい特別な勉強をする所という印象を受けますが、決してそうではありません。たとえば、同じクラスや学年でも、勉強の進み具合は個人により多少の差があります。そこで教育機器を用いて生徒ひとりひとりの進み具合を測り、そして、そのひとりひとりに最も適した学習材料を与えます。したがって、教育工学室は進み具合を測定する機器(これをアナライザーと呼んでいます)を中心に構成されています。このほかに、テレビ・教材提示機・プレイヤー・テープレコーダー・OHP・VTRなどの教育機器が設置してあります。国語の古典文法・英文法・数学・社会科の勉強などで活用されます。特に教育工学室の機器類は非常に精密なものばかりですので、ここで勉強する時は、先生の指示以外は機器類には触れぬようお願いしております。

▶ 視聴覚室 この部屋には、カラーテレビ6台・VTR・スライド・16ミリ・8ミリ・教材提示装置・OHPなどの日頃の授業で必要なすべての教

育機器がセットされており、そしてこれらの機器とスクリーン・暗幕・照明などのすべてがリモートコントロールできるようになっており、ここは、本校の視聴覚施設の中心です。国語・社会・理科・体育・芸術などの教科で多く活用されており、またLHR・クラブ・課外活動でも使います。

▶ 第1講義室 2階中央にあります。カラーテレビ4台・スライド・OHPがあり視聴覚室の同じ機能です。特に教卓での料理実験などをテレビカメラでとらえ、テレビに映し出される装置は、これから授業の中で大いに活用されることでしょう。

▶ 授業中はスライド・テレビ・映画を見るのは息ぬきのためではありません。授業中はいつも真剣に「聞く・見る・書く」習慣を身につけてください。メモやノートのとり方はすばやく。1時間の授業の密度はかなり高いので、最初のうちは疲れますがすぐに慣れてしまいます。また、このような機器を用いての授業は、そのテンポが速くなります。各教科の学習ノート・作業ノートやプリントに示された課題はきちんとやる習慣をつけてください。

▶ 施設や機器を大切に授業で用いる施設や機器は、精密で高価なものばかりです。授業中や先生の指示で教室に運搬するときは大切に扱ってください。特に教室のスクリーンの上げ下げは静かに、テレビは調整してあるので勝手にさわらぬこと。また機器類を使用した後は、必ずもとの場所へ返しておくこと。以上の注意は、ごくあたりまえのことです。北陵高校は、あたりまえのことをあたりまえにやる学校です。

「北陵われら'77」(昭和52年4月発行)より転載

視聴覚施設・設備

(1) 視聴覚室・同準備室

種類	品名(型式)	数量	備考
A V 調整卓	エルモ・ミキシングコンソール(7101型)	1	視聴覚準備室
	エルモ・レクチャーテーブル	1	視聴覚室
教材提示装置	テレビカメラ(モニターテレビ付)	1	視聴覚室
	教材提示卓(ナショナルピュアーウエ-501)	1	視聴覚室
テ レ ビ	ソニー-CVM-1360(カラー親テレビ)	1	視聴覚準備室
	ソニー(KV-1845 カラー子テレビ)	6	視聴覚室
V T R	ソニー(AV-8750 カラー)	1	視聴覚準備室
映写機	16ミリ映写機(エルモF16-250HL)	1	視聴覚準備室
	8ミリ映写機(エルモST-8)	1	
	スライド 映写機(エルモAS-1000T)	1	
O H P	エルモOHP(HP-300)	1	視聴覚室
その他の機材	放送装置(マイク3本内ワイヤレス1本)	1	視聴覚準備室
	タイマー(7日間自動録画 リジョー)	1	
	複写装置(マクロレンズ付一眼レフ、蛇腹装置ストラップ付)	1	
	スクリーン(電動式ワイド)	1	視聴覚準備室
	暗幕(電動式)	1	
	調光装置	1	視聴覚室 視聴覚準備室
	電話(視聴覚室視聴覚準備室間通話用)	1	

(2) 教育工学室・同準備室・録音室

種類	品名(型式)	数量	備考
集団反応分析装置	ナショナルWE-2600(ブラウン管ディスプレイ方式アナライザー48人用)	1	教育工学室
教材提示卓	ナチュナルビュア(WE-501 カラーテレビカメラ使用、リモコン操作スライド映写機内蔵)	1	教育工学室
VTR	ナショナルVTR(NV-3020 カラー)	1	教育工学室
	ナショナルVTR(NV-3020SDカラー編集機付)	1	
テレビ	ナショナルカラー親テレビ(TH13-R30V)	1	教育工学室
	ナショナルカラー子テレビ(TH20-A231C)	4	
テープレコーダー	ナショナルカセットデッキ(RS-630U)	1	教育工学室
	ナショナルカセットデッキ(RS-255U)	1	
OHP	エルモ(OHP-300)	1	教育工学室
レコードプレーヤー	ナショナルプレーヤー(SP-221S)	1	教育工学室
その他の機材	スクリーン	1	教育工学室
	マイクロフォン	3	
	テープレコーダー(LLソニーTC-1365)	9	教育工学準備室

(3) 第一講義室

種類	品名(型式)	数量	備考
VTR	ソニーVTR(AV-8700 カラー)	1	
テレビ	ソニーカラー親テレビ(CVM-1360)	1	
	ソニーカラー子テレビ(PYM-2020)	4	
TVカメラ	シバデンTVカメラ(HV-70Mモノクーム)	1	
映写機	16ミリ映写機(エルモF16HL)	1	
	スライド映写機(エルモAS1000T)	1	
OHP	エルモOHP(HP-300)	1	
その他の機材	スクリーン	2	
	AVタイマー(リジョー)	1	
	暗幕	1	

(4) その他の主な施設・設備

種類	品名	数量	配置	備考
放送調整卓	ピクター P S C - 6 0 0 0 (三元)	1	放送調整室	
	ピクター P A C - 5 0 0 0 (一元)	1	体育準備室	
オーディオシステム	ピクター Q S R - 2 3 3	1	音楽準備室	
	ピクター M T R - 1 0 M (デッキ)	1		
レコードプレーヤー	ピクター P A E - 1 6 4 B	1	体育準備室	
V T R	シバデン S V - 5 1 0 J	1	社会科教室	モノクローム
	ソニー A V - 8 7 0 0	1	地学教室	カラー
テレビ	シバデン T R M - 9 1 3	1	社会科教室	モノクローム
	ピクター C - 1 4 2 0 S	1	学生ホール	カラー
	ソニー C V M - 2 0 8 0	1	地学教室	カラー
スライド映写機	エルモ A S - T	1	生物室	
	エルモ A S - 1 0 0 0 T	1	社会科教室	
	エルモ リーゼガングA - 3 3	2	地家教室 家庭科教室	ワイドレンズ1個付
O H P	エルモ H P - 1 0 0 A	2	音楽室、生物室	
	エルモ H P - 3 0 0	7	社会、美術、書道 家庭他	
テープレコーダー	ソニー (ラジオカセット) C F型	6	英語科、社会科 国語科	
	コロンビア (ラジオカセット) RN1-747	3	英語科	
	アイワ (ラジオカセット) TM-402S	1	英語科	
	ソニー (カセット) T C - 1 3 7 0	8	体育科、視聴覚	
	ピクター (カセット) CCR-610	5	図書館他	
	ソニー (オープン) T C - 3 6 5 T C - 5 1 0 0	2	視聴覚、英語科	
ラジオ	ソニー T F M - 2 0 0 0 F	1	視聴覚準備室	
アンプ	ピクター P T A - 1 6 0 R	1	視聴覚準備室	
T P 製作機	エルモ T P - 2 5 0	1	視聴覚準備室	
ドライヤー	ジヤボ J E T - 2	1	視聴覚準備室	
スクリーン	エルモ スプリングローラー(150×150)	30	全普通教室	
	エルモ スプリングローラー(180×180)	13	特別教室	
	エルモ ポータブル (180×180)	2	教育工学準備室等	
暗幕設置室		13	体育館等	
録画用タイマー	リジョウ R H - 3 2 0	1	視聴覚準備室	
		3	第1講義室	

本年度視聴覚関係教室の使用状況

(1) 視聴覚教室

①総授業時数	②使用時数 (①対%)	③教科科目別内訳 (②対%)	備 考
1,066	785 (73.6)	社会 日本史 566 (72.1) 地理 156 (19.9) 主題学習 20 (2.5) 英語 13 (1.8) 体育 6 (0.8) 美術 1 (0.1) L H R 17 (2.2) 図書オリオンテーション 5 (0.6)	日本史の授業の一部は週の授業時間割に固定して定期使用

(2) 教育工学室

①総授業時数	②使用時数 (①対%)	③教科科目別内訳 (②対%)	備 考
1,066	607 (56.9)	国語 古典 310 (51.1) 社会 日本史 48 (7.9) 地理 136 (22.4) 英語 94 (15.5) 体育 5 (0.8) L H R 14 (2.3)	古典と英語の授業の一部を定期使用

(3) 使用の概況

上表の数字は、54年度視聴覚教室、教育工学室使用予定表に記された実施記録から得たものである。

これをみると、両教室ともに社会科関係の科目での使用率が高く、国語、英語がこれに続き、L H Rでも盛んに使用されていることがその実使用数からわかる。

両教室の実使用率は、上表の通りで、比較する資料はないが、年々使用頻度がたかまっていることは事実である。また、実際に使用していながら記録していない分もあると推定されるので、実際にはもう少し高い率で使用されていると思われる。

第一講義室については、使用予定表に実施記録がないので使用の実数はつかめないが、理科を主体にして週の使用割当が定められており、社会科、家庭科、体育科も當時使用している。この教室も、テレビ、スライド、O H P の設備があるので、年間の使用率は 50 % をこえるものと思われる。

以上その他、各普通教室にはスクリーンが設備されており、要所に配置されたO H P を教室に運んできて行なわれる T P を使用しての授業がほぼ日常化されている。

視聴覚教育の目指すもの

視聴覚教育活動の今後の充実、発展の一方向として「学習資料センター」という構想がある。

昨年10月5、6日、滝川西高校で開かれた放送視聴覚教育研究大会で、多田俊文氏（東京学芸大助教授）は、「将来、学校とは、学習教材のあるセンターとなり、生徒はそこへ行って、自ら学習資料を探し出し、それを使って学ぶようになる。教師は、学習資料の作成と個々の生徒の学習における様々な問題点を診断し、適切な指示を与える役割をもち、さらにその中の視聴覚教材は単に理解の補助手段にとどまらず、学習過程における動機づけ、探究心の涵養、問題提示といったより積極的手段としての機能をもつようになるだろう」と述べている。

「視聴覚教育」誌、最近号でいくつかの小学校、中学校の「学習資料センター」の構想が紹介されているが、高校においては、まだ実例がないようである。それは多分、学習内容の高さと複雑さや生徒の志向するものの多様さに対応するには多くの準備期間を必要とするからであろうと思われるが、教師の、授業で使用しないときは積み重ねられたままになっている多くの自作視聴覚教材や市販の T P 、スライドなどを生徒の自発的学習の便に供するよう、系統化し、解説文をつけて校内の一隅に設置するといった仕事が積み重ねられていけば、高校においても「学習資料センター」の実現は不可能ではないように思われる。

ほとんどの学校で生徒が図書館から本を借り出して読むように、T P やスライドを解説資料とともに借り出した生徒がプロジェクターを操作して資料をデーライトスクリーンに写し出しながら、その日のある教科の授業の復習をしているという姿はすでにいくつかの小学校で日常化しており、自発的、主体的学習の効果をあげているようである。

校内組織として「学習資料センター」を設けるには、将来の発展・拡充も予測した慎重な計画立案が必要であり、また多くの人的、物的環境の変革もせまられると思うが、新しい学習のありかたとして効果が期待できるものであるならば、この構想をとりあげて研究してみる価値はあるように思うのである。

本校における視聴覚教育のあゆみ

年 月	施 設 設 備 の 充 実	研 究 ・ 利 用 の 実 践
47. 4 5 8 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ○札幌北陵高等学校開校（一条仮校舎） ○本校における教育機器整備の第1号として、16ミリ映写機(1)・8ミリ映写機(1)・スライド映写機(2)・OHP(2)・テレコ(3)・ラジオ(1)・プレーヤー(1)・ステレオ(1)を購入。 ○新校舎建築構想について検討開始。 ○道教委からVTR(VTR(1)・モニターTV(1)・TVカメラ(1))管理換。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校務分掌で視聴覚係は教務部に所属。 ○視聴覚室は図書室と兼用で使用開始。各教科で教育機器の活用と、研究活動を始める。
10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ○カセットテレコ(5)・ヘッドホン(5)を購入。図書室に設置し、生徒の個別学習に活用。 ○新校舎の基礎 打工事着工。 	<ul style="list-style-type: none"> ○VTRの導入により、学校放送の利用開始（地理・生物・LHR等） ○他校視察（旭川西高・砂川北高・札幌女子高・道教大札幌教育工学センター等） ○新校舎における視聴覚施設として、視聴覚室、教育工学室・校内TV放送・放送室等の基本的構想まとめる。 ○校内視聴覚研修会（OHPとTP制作について） ○全道視聴覚教育研究会参加（帯広・1名）
48. 4 5 6 8 11	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室の移転にともない、視聴覚室が整備される。 ○OHP(3)・セニターTV(2)・テレコ(2)・スクリーン(5)を購入。特別教室に固定スクリーンを設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内視聴覚研修会（新校舎の視聴覚教育関係施設々備のあらましについて説明・TP制作について宗） ○放送教育全国大会（札幌・2名参加）
49. 3		<ul style="list-style-type: none"> ○石狩高視研放送・視聴覚研究集会（月寒高・参加者～国語科全員） ○他校視察（山梨県立甲府南高・愛知県立時習館高・ソニーAVセンター・4名参加）

年 月	施 設 設 備 の 充 実	研 究 ・ 利 用 の 実 践
49. 4 6 7 8 10 12	○O H P(5購入。各準備品に配置。 ○視聴覚室の施行業者（札幌市・光映堂）決定。 新校舎へ移転 ○視聴覚室完成。全普通教室にスクリーンを設置。	○学校放送テキストを購入。関係準備室・教員室に配布。放送教育の普及（P R）をはかる。 ○視聴覚室の基本構想まとまる。 ○校内研究会として「教育工学サークル」誕生。 以後毎月2回例会を開催 ○他校視察（愛知県立時習館高、3名参加） ○校内研修会（O H P・V T Rについて） ○北空知視聴覚研究集会に参加。アナライザの基本について学習（砂川北高・6名参加） ○全道視聴覚教育研究会（北見・3名参加）
50. 1 4 5 6 10 11		○視聴覚室の操作について校内研修会 ○視聴覚教育係は教務部から学習指導部へ移る。 ○教科別研修会（視聴覚室の操作について、各教科2回実施） ○他校視察（愛知県立時習館高・東郷高・愛知県教育センター、2名参加） ○校内研修会（スライドの自作、O H Pについて） ○校内研修会（社会科主題学習の実践について教育機器を用い研究発表） ○視聴覚教育全道大会（旭川・1名参加） ○空知教育工学研究会（岩見沢・3名参加）
51. 3 4	○第1講義室にV T Rシステムを整備 カラーV T R(1)・モニターT V(5)・ タイマー(1)) ○ポータブルV T R一式購入。	○他校視察（愛知県立時習館高・豊橋南高・市立豊橋高・2名参加） ○石狩高視聴研理事長・事務局校となる。

月 日	施 設 設 備 の 充 実	研 究 ・ 利 用 の 実 践
51. 5 6 8 9 10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> ○スライド映写機(2)・テレコ(7)・ワイヤレスアンプ(1)を購入。 ○教育工学室の整備について基本構想まとめる。 ○教育工学室の工事施行業者決定（札幌・光映堂） ○教育工学室工事開始。 教育工学室完成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放送コンテスト石狩地区予選会当番校。 ○放送教育全国大会（奈良・1名参加） ○他校視察（愛知県立時習館高・1名参加） ○校舎落成・開校5周年記念式挙行、教育工学室披露。 ○石狩高視研放送・視聴覚教育研究集会（本校・公開授業13、分科会10、参加者168名。全体講演～愛知県立時習館高校加藤正彦氏） ○視聴覚教育全道大会（釧路・2名参加） ○教育工学室の操作について説明会
52. 1 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○教育工学準備室を整備。 ○テレコ(9)・ヘッドホン(9)購入。図書室でこれらを活用しての個別学習の準備中。 ○教育工学準備室、録音室の整備完了。 	<ul style="list-style-type: none"> ○視聴覚教育担当者研修（教育工学室について） ○石狩高視研視聴覚技術研修会（ナショナルAVセンター、OHPの操作とTP制作について、3名参加） ○石狩高視研事務局任期終了、札幌西高へ。 ○NHK学校放送研究委嘱校に決定しモニター番組～「古典研究」「名典ライブラリー」「現代の世界」「高校生の科学－生物」） ○教育工学室でアナライザーを活用しての連続利用開始。古典（1年）・英文法（1年）・講読（3年） ○「教育の現代化をめざして－本校の視聴覚教育－」パンフレット発行。

年 月	施 設 設 備 の 充 実	研 究 ・ 利 用 の 実 践
53. 4 6 10 11		<ul style="list-style-type: none"> ○ A V 研修会（新任教員を対象に、主にハード・ウェアを中心） ○ A V 研修会（O H P を中心とした自作教材の作り方について） ○ A V 研修会（自作スライドの作り方を中心に） ○ 視聴覚教育全道大会（苫小牧・2名参加） ○ 石狩高視研放送・視聴覚教育研究集会（北星女子高・2名参加）
54. 3 4 5 8 10 11	<ul style="list-style-type: none"> ○ O P H の総点検・補修 ○ テレコ（タイマー付き）購入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第31回放送教育全国大会（55年・10月予定）の当番校となる。 ○ A V 研修会（新任教員を対象） ○ A V 研修会（N H K ・「高校生の広場」を利用したロング・ホーム・ルームの指導について） ○ 全道高校放送視聴覚技術研修会（ナショナルA V センター、1名参加） ○ 放送教育全国大会事前研修会（栄南中、5名参加） ○ 視聴覚教育全道大会（滝川・3名参加） ○ 石狩高視研放送・視聴覚教育研究集会（本校、
55. 1 3 8 10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動式 V T R セット(1)購入 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科主題学習「自然と人間」と国語科のアナライザーを利用した「古典文法」の授業を公開） ○ 放送教育全国大会（岐阜・2名参加） ○ 放送教育全国大会事前研修会（向陵中・8名参加） ○ 放送教育全国大会事前研修会（柏中・8名参加） ○ 第31回放送教育研究会全国大会（本校公開授業4、部会研究2、参加者50名）

学習の現代化をめざして

発 行 昭和 55 年 10 月

北海道札幌北陵高等学校
札幌市北区屯田646番地の5
TEL 011 (772) 3051~3053

印刷所 旭 プ リ ン ト 株 式 会 社
札幌市西区北1条西22丁目
TEL(011) 641~3611
